

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-		
		商店街（代表者）	・客の流れが良くなっている。旅行用品等が良く売れている。		
		商店街（代表者）	・周辺地区の大型スーパー閉鎖の影響もやや一段落し、今後は街中に人が戻ってくる。		
		スーパー（店長）	・近隣に超大型店が出てきたのが先々月末なので、ここである程度の底を打ち客数が戻りつつある。買上商品も、安いもの一辺倒から多少付加価値のある高いものに変ってきている。		
		スーパー（企画担当）	・買上点数が若干増えており、来客数は大幅に伸びている。今後もこの傾向は続く。		
		コンビニ（店長）	・近くに大型商業施設がオープンしたため、今後は客の流れが良くなる。		
		衣料品専門店（店員）	・夏物衣料の動きが良くなり、旅行関連商品の動きも戻ってくる。また、セール待ちの客がたくさん来店しているので、セール時期の売上が期待できる。		
		衣料品専門店（総務担当）	・来客数が増えおり、婦人服や、中級、高級の宝石類の売上が好調である。今後もこの傾向が続く。		
		衣料品専門店（経理）	・来客数が増えており、客は今までより良いものを求めており、薦めれば2点、3点買っていく傾向にあるため、今後も買い上げ単価が上昇していく。		
		家電量販店（企画担当）	・ここ1～2か月前から来客数が増えており、今まで売上が不振だったパソコン等が回復しつつある。また、新しいマイナスイオンの製品や住宅関連の生ごみ処理機、除湿機などがよく動いている。今後の売上が期待できる。		
		乗用車販売店（従業員）	・新型車が出て、形が良ければ来場も多くなっており、契約も増えている。よって、今後は徐々に良くなっていく。		
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・今後は原油価格の安定と円安に向かうと思われる。元売仕切りも落ち着き、小売価格も下落し、需要が伸びてくる。		
		都市型ホテル（スタッフ）	・ワールドカップサッカーがある時期は、多くの人が家でテレビをみるためホテル利用は落ち込むが、2～3か月後は終了しているため、ある程度は上向いていく。		
		旅行代理店（従業員）	・米国テロの影響は、海外部門ではまだ若干あるものの、最近7、8月の夏休み期間の旅行申し込みが増えている。特に、ヨーロッパなど長期旅行の需要が多い。		
		通信会社（営業担当）	・買上単価はなかなか上がらないが、販売量が少しずつ増えている。		
		通信会社（総務局長）	・新規契約数、来客数の状況から、今後の売上はかなり上向きになることが予想される。		
		設計事務所（所長）	・新しい企画や、新築、増築の相談事の持ち込みが多くなっているため、今後は期待できる。		
		変わらない	変わらない	商店街（代表者）	・当商店街には空調設備、冷暖房の設備がないため、夏は暑く、冬は寒い。また、個人的な商店であるため商品管理も難しくなっている。このような問題に商店街全体で早期解決を図っているが、金銭的な問題が含まれているので、解決されていない。厳しい状況は今後も続く。
				商店街（代表者）	・来客数が増えているが、購入まで至っていない。
				商店街（組合職員）	・来街者は車を所有していない病院帰りの高齢者が多いため、買物は専ら食品が多く、必要なものだけ購入している。今後もこの傾向が続く。
百貨店（売場主任）	・バーゲン商品に対する反応はあるものの、プロパー商品に対する反応は依然として慎重である。				
百貨店（営業担当）	・食料生鮮品、婦人雑貨、婦人靴、化粧品、婦人服は順調であるが、紳士服が売れていない。また、日常的なものは買うが、それ以外の贅沢品は控えているという傾向である。今後もこの傾向が続く。				
百貨店（営業担当）	・客の購買意欲が依然として盛り上がりを欠いている。				
百貨店（営業担当）	・各百貨店がクリアランスを6月に前倒しすることが予想される。前倒しにより6月は若干潤うが、その分7月は前年比マイナスになる。				
百貨店（売場担当）	・新たな競争相手の出現で、我が社に関するかぎりは依然厳しい状況が続く。				
スーパー（店長）	・客数は増えつつあるものの、近隣店との競争が激化し、客単価の伸びが鈍化している。				

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・現状はやや上向きの傾向であるが、さらにアップする要因が見当たらない。消費者は、価値と価格の一致した商品への購入欲は持っているため、販売点数も伸びているが、客単価、売上総額ともにあまり変動していない。
		スーパー（総務担当）	・6月はワールドカップの影響で、消費は若干上向きになるかもしれないが、大きな伸びは期待できない。
		スーパー（総務担当）	・ここ数か月、衣料品を中心に前年割れが続いており、夏物商品の売れ行きもさほど好調でない。今後も厳しい状況は続く。
		スーパー（企画課長）	・今後、中元商戦の時期に入るが、地場産業の不振により企業の賞与がかなり削減されることが想定されるため、あまり期待できない。
		コンビニ（経営者）	・客の様子をみると、やや購買意欲が上向いている人達がいる一方で、リストラ等により失業したという方もいる。
		家電量販店（店長）	・レジ客数が前年より1割程度減っている。
		家電量販店（店員）	・パソコンに関しては、ほぼ全メーカーで新製品が揃い、これから販売量が増えていくことが予想されるが、来客数の減少も加味すると現状は変わらない。
		乗用車販売店（従業員）	・新車販売台数が伸びていない。
		乗用車販売店（管理部長）	・新車が出たことで販売量は少しは上向くが、今年はこの1車種のみでの予定であるため、長い効果は期待できない。地道な努力や、客のニーズに応じた仕事をやっていかなければならない。
		乗用車販売店（販売担当）	・生活の中で景気が良くなったと感じられない以上、低価格商品ばかりが購入される。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊や宴会場の予約状況を見ても、あまり変化がない。
		タクシー運転手	・デパートに行っても、何も買わずに帰る客を乗せることが多い。また、夜の繁華街はタクシーの台数の方が人より多い、いわゆる提灯行列の状況にある。
		タクシー運転手	・昼の客は増加傾向にあるが、夜の客が減少傾向にあるので、どちらかという横ばいの状況となる。ただ、観光客がいくらか増加傾向にあるため、その面に期待したい。
		通信会社（業務担当）	・新商品が出ると旧種類の価格が下がり、瞬間的に販売が伸びるかもしれないが、またしばらくすると落ち着いて販売が低迷するというサイクルが繰り返される。今後はサービス部門の強化で機械販売のマイナスを補うしかないという状態である。
		通信会社（営業担当）	・夏のキャンペーンに突入したが、代理店を含め、客の食いつきが悪い。
		設計事務所（社長）	・特に目新しい仕事や目標が見当たらない。
住宅販売会社（常務取締役）	・住宅業界は今後、より競争が激しくなる。		
住宅販売会社（従業員）	・売上の大幅な増加は見込めないが、民間金融機関から安い金利の住宅ローンが出ているので、それにつられて客が動く可能性はある。		
やや悪くなる		百貨店（営業担当）	・非常に予想し難いが、今後は中元等の法人需要がどこまで落ち込むか、また、個人がそれをどこまでカバーできるかにかかっている。ワールドカップ効果も、小売に対する規制がこれだけある中ではそう期待できない。
		百貨店（販売促進担当）	・価格競争がさらに激化し、そのためにバーゲンの売上が2けたの伸びを示しているが、プロパー商品の売上が前年を大きく下回るという結果になっている。今後はますますこの傾向が続き、売上が非常に厳しい状況になる。
		旅行代理店（業務担当）	・夏のボーナスの支給額が前年を下回る会社が多いので、レジャーに使う経費が前年より減少する。
		美容室（経営者）	・どうしても景気回復の材料が見当たらない。ワールドカップがあっても、末端まで効果は波及するとは思えない。
悪くなる		高級レストラン（経営者）	・以前は法人客と個人客が半々くらいの売上であったが、最近法人客が激減しており、個人客が7割、法人客が3割くらいの割合になっている。どこまで売上が落ちるか想像できない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
企業 動向 関連	良くなる	電気機械器具製造業 (経営者)	・これからは製造業が中国へ資本輸出する動きが進む。よって当社では、輸出や輸入に関係ない人的部分の新規事業を目指したが、この事業が今後は着実に成長・発展していく。今、半導体はすごい勢いで伸びているが、当社ではせっかくりストラをして企業体質を再構築したのに、またバランスを崩してしまうため、困っている状況である。
	やや良くなる	家具製造業(従業員)	・家具製造業では、東京の民間需要がかなり旺盛であり、その影響がだんだん地方に出てくる。少し明るい兆しが見えてきている。
		精密機械器具製造業 (経営者)	・受注量や新規受注の引合いが増えており、また、取引先の営業情報もやや明るいものとなっている。
		建設業(総務担当)	・見積依頼も増えてきており、順調に受注ができれば現在より良くなる。ただし利益が出るかどうかは別である。
		建設業(営業担当)	・9、10月に発注予定の大型物件が官民各方面の職種に上がっている。
		金融業(調査担当)	・株式相場の好転など、マクロ指標の改善に期待が高まっている。
	変わらない	農林水産業(経営者)	・食品の安全・安心に対するコストアップはかなりの負担になっているが、景気回復が今一つのため、あまり成果は期待できない。
		一般機械器具製造業 (経営者)	・業種的には底打ち感があるが、取引先全般からすると、凹凸が非常に激しい状態である。ただ、仕事の絶対量からすると、昨年の同時期よりは確実に良くなっていく。
		電気機械器具製造業 (経営者)	・半導体の大手リードフレーム関連企業の動きが、6、7月には中だるみという話を聞いている。半導体関連商品の在庫調整はまだ先にずれこむという話も聞いている。
		建設業(経営者)	・工事手控えの状態が続いている。
		広告代理店(従業員)	・折り込みチラシの代理店に勤めているが、現在の受注状況は底打ち感はあるものの、悪いままずっと継続している感じである。取引先の話からも、しばらくは今の底打ち状態のまま続くことが予想される。
		広告代理店(従業員)	・広告予算の節減状況は底を打っているとは言えない。単発広告の増加には明るい兆しが見られるものの、レギュラー広告の減少が続いている。
	やや悪くなる	一般機械器具製造業 (経営者)	・製造業では根本的な対策がなかなか見えてこず、製造の中国移管に対する脅威がどうしても拭いきれない状態である。
		輸送用機械器具製造業 (営業担当)	・今まで受注を受けていた主力品が外国での生産に切り替わり、枝葉の仕事が主力になりそうである。
		輸送業(従業員)	・消費者は安いというだけでは買わず、本当に必要な物だけを買うようになっている。そのため、メーカーが大量生産をせず、在庫、出荷を抑えるという最悪な状態が続いている。
	悪くなる	農林水産業(従業者)	・農産物の生産者価格は一時やや回復したものの、長続きせず下落を始めている。
		繊維工業(部長)	・ここ2、3か月が生き残りの分岐点になると思う。縫製工場においては、どの工場も小ロット、低単価、クイック対応という苦しい対応ばかりを迫られている。
		窯業・土石製品製造業 (経営者)	・窯業界は例年、6～8月は受注量、単価、数量、出荷額ともに落ち込むが、今年は特にひどくなる。
		不動産業(従業員)	・不動産の需給バランスが未だ改善せず、価格下落に歯止めがかからない状況である。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	職業安定所(職員)	・今回採用意向アンケート調査を実施したが、これまでの調査では中途採用見込みと回答した事業所は10%台だったが、今回は約52%となっている。
		民間職業紹介機関(支店長)	・需要が昨年同時期よりもやや増えている。
	変わらない	求人情報誌製作会社 (総務担当)	・中途採用マーケットはまだ厳しい状況が続いているが、半導体関連では底打ちの気配が出てきており、人員募集が少し出てきている。ただ、それが景気を底上げするのか、それとも一時的なもので終わるのかは、しばらくしないと分からない。
		新聞社[求人広告] (担当者)	・状況がかなり悪くなっている業種が多々ある。古い体質からなかなか抜けきれず、21世紀型の企業への脱皮ができない企業が倒産する状況が今後ますます増えていく。
		職業安定所(職員)	・当面はリストラ及び解雇、企業倒産等が続き、新規求職者数が増加する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・企業整理件数は減少しているが、新規求人数は微増にとどまっており、一方で有効求職者数は増加傾向にある。
		職業安定所（職員）	・今後もリストラ等による離職者が増えてくる。求人については、公共事業等の関係で建設業で大幅な減少が予想されるが、IT関連がやや持ち直している状況である。
		民間職業紹介機関（職員）	・マーケットをアジアに移している企業については、採用枠が増えているため、一部の製造業については上向きの可能性がある。しかし、流通業の落ち込みは依然として大きく、求職者の登録が非常に多くなっている。改善点はまだ見出されていない業種、企業の雇用は非常に難しくなる。
	やや悪くなる	学校〔専門学校〕（就職担当）	・特に非製造業は、いまだ底から脱しておらず、求人数、採用者数ともに厳しい状況が続く。
	悪くなる	職業安定所（職員）	・退職者募集や休業を実施しようとする事業所が散見される。